

鉄棒における演技構成に関する一考察 ～組み合わせ加点に着目して～

小西 康仁
東海大学

1. はじめに

今日の体操競技は F.I.G (国際体操連盟) が定めた採点規則 (Code of Points) により採点が行われている。

その採点規則は 4 年周期で改定が行われてきたが、2006 年に大きく変革がもたらされ、今までの 10 点満点を越える点数が表示されるようになった。演技の価値点に関わる D スコアと、演技の実施点に関わる E スコアとの合計によって選手の決定点が算出されるようになった。そのため選手はより高難度な技を演技に組み入れなければならなくなったが、技の偏りを制限するために各グループ要求から 4 技と制限されている。

本研究に取り上げた鉄棒には特定の条件を満たすと「組み合わせ加点」が獲得できる。その条件とは、D 難度以上の鉄棒上での技から D 難度以上手放し技 (逆も可) の連続で 0.1 点、C 難度以上の手放し技から D 難度以上の手放し技 (逆も可) の連続で 0.1 点、D 難度以上の手放し技から D 難度以上の手放し技 (逆も可) の連続で 0.2 点の「組み合わせ加点」を獲得することができる。演技を構成する上でも手放し技は必要であるが、この「組み合わせ加点」を得るためにはより高難度の手放し技が必須条件となっている。D スコア向上のためにはこの組み合わせ加点の獲得は必要不可欠であると考えられる。

そこで本研究は、鉄棒の組み合わせ加点の利点から、国内大会と国際大会の鉄棒種目別決勝の上位 3 名の映像を参考に、演技構成の違いを比較考

察して、世界的傾向と相違点を探ることを目的とした。

2. 研究方法

2013 年版採点規則適用後に行われた競技会の中から、2013 年と 2014 年の世界選手権と全日本体操種目別選手権の鉄棒種目別決勝の映像を参考に、国内大会と国際大会の鉄棒の演技構成の違いを比較考察して相違点を探ることを目的とした。

また各競技会における鉄棒の種目別決勝の演技を分析し、上位 3 名の D スコアと組み合わせ加点を算出した。その資料を参考に組み合わせ加点の利点から考察を行った。

3. まとめ

結果として、国内大会よりも国際大会では、手放し技の連続による組み合わせ加点をより多く獲得している傾向であった。また、手放し技についても、より高難度な技を行っている傾向であった。やはり D スコア向上のためにはより多くの組み合わせ加点を獲得すること、より高難度の手放し技を実施することが重要であると考えられる。そのためにもより多くの手放し技を習得する必要があると考えられる。

しかしその一方で、身体的負担や失敗のリスクを増大させることが推察され、その対応の検討も今後の大きな課題と言える。